

第三一回 二・一一思想と信教の自由を守る静岡県西部集会

「二月十一日」は、何の日ですか？

◆二月十一日。戦前は「紀元節」と呼ばれ、初代天皇と考えられた「神武(じんむ)天皇」が即位したことを祝い、その子孫(天皇)による統治は永遠であると教えてきた天皇制の出発の日です。

◆その根拠の「日本書紀」には、「辛酉(かのとり)年春正月一日(元旦)即位」と記されていますが、明治政府は、太陽暦に換算して「紀元前六六〇年二月十一日」と決めました(一八七三年・明治六年)。

◆しかし、明治政府の説明どおりだとすると、紀元前六六〇年頃の日本は、縄文時代。文字や暦は勿論のこと、階級もなく、ましてや天皇もいない時。つまり天皇制は、まったくの「架空」から出発したのです。いわば「歴史の偽造」と言ってもよいのです。

◆しかし明治政府は、一八八九(明治二二)年二月十一日に「大日本帝国憲法」を發布するなどして、天皇を中心とする国を推進するために、「二月十一日」を利用し、そこにほとんどの国民を巻き込み、アジア諸国侵略へと突き進んでいったのです。

◆今回は、日本の起こした愚かな戦争：満州事変・アジア太平洋戦争：を改めて振り返りながら、今どういう視点を持つべきかなどを、ご一緒に考えたいと願っています。奮ってご出席ください！

日時 二〇一一年 二月十一日(金)

午後二時開会(開場一時半)～四時過ぎ閉会予定

場所 浜松市地域情報センター(東田町)

講演 「歴史の偽造を許さないために」

…満州事変から八〇年、アジア太平洋戦争から七〇年」

講師 渡辺 賢二氏 (明治大学文学部講師)

※尚この集会は、約二〇団体の共催にて開催されます。

(連絡先 浜松市中区紺屋町三〇一～一五 小林)